

2021 年度事業計画

◎基本方針

New daily life *2021*

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大を踏まえて、厚生労働省はウィズコロナ時代に対応した社会保障の構築を掲げ、国民のいのち・雇用・生活を守ることに加えて、「新たな日常」を支える社会保障を目指している。

新型コロナウイルス感染症が終息した暁に訪れるポストコロナ時代は、これまでの社会常識を根本から変革する時代の到来でもある。歯科技工士のナショナルセンターである日本歯科技工士会は、この「新たな日常」に備えた活動拠点として、引き続き、歯科専門職として活躍できる環境整備に取り組んで行く。

1. 第2次中長期総合計画の策定

- 公益法人として中長期の事業計画を示すことは、単年度事業の充実に欠かせない取組であることから、前事業計画の総括を踏まえて策定に取り組む。
- 策定にあたっては、社会状況の変化や会員ニーズを積極的に反映させる取り組みを検討する。
- 策定後は、各事業部門が連携して啓発活動を積極的に行い、組織の有用性をアピールする手段として活用する。

2. 公益社団法人としての円滑な会務運営

- 歯科技工士のナショナルセンターとして、公益事業をとおしてその存在を広く社会にアピールする。
- 「新たな日常」を踏まえて、ICTやオンライン等を積極的に活用し、これまでの常識にとらわれず、合理的会務運営に徹する。
- 引き続き、公益目的事業と各事業部門の事業内容の「検証」と「改善」を継続する。

3. 歯科技工士の環境整備に向けた取り組み

- 今年度も歯科技工士の環境整備のための国の直轄事業の受託に努め、安定した事業運営と事後評価の活用を図る。
- 課題解決の柱である「製作技工に関する費用の考え方」、「歯科技工士基礎教育の年限延長」等についてセミナーの実績や厚労科研の取り組みを踏まえ、実現に向けて戦略的に取り組む。
- 環境整備の原動力として不可欠な組織拡充について、全ての事業部門が一体となって、危機感を共有し活動する。

なお、コロナ禍にあっても歯科技工士のナショナルセンターとしてやるべきことは引き続き、果敢に取り組み、その上で、「新たな日常」を好機と捉える発想を共有し、社会の信頼と会員の団結に応える組織運営に努めていく。